

横浜市情報・視聴覚教育研究会

生きる力をもつ子どもたちに

研究会長 田中 公明

昨今の学校教育を取り巻く状況は、子ども達に様々な「力」をつけていけなければならないようになってきました。特にグローバル化の波に乗っての英語教育、そしてICTの進化に伴っての情報教育が注目を浴びてきました。最近では、思考力を伸ばす視点から、アクティブラーニングが謳われるようになってきました。

横浜市の政策として、教育振興計画にあるICT関連では、平成 30 年度までにタブレット端末を全校に配当することになっています。今年度は先行導入ということで、小中方面別に各1校(計8校)に配当され、実践事例を積み上げようと各校での努力が行われているところです。

このような流れの中で、私たち情報・視聴覚研究会は何を目指していくのでしょうか。新しい教育方法や機器・手法を追い求めるのも一つの在り方でしょう。大切なことは、子どもの力～生きる力～をいかに育てていけるのか、という基本的な考え方でしょう。そのために、教育方法やICTを活用していくのが本来的な在り方だと思うのです。もちろん先駆けとなって、試行錯誤しながら取り組んでいくこともあります。その時でも、見通し(仮説的なもの)をもって取り組まなければ、研究的な側面はともかく、子どもの力はずかぬと思います。であるからこそ、情報・視聴覚研究会の存在意義があるのです。既成の教科指導にとらわれることなく、ねらいをしっかりと持ち、仮説をもって指導に当たる姿こそ、私たち情報・視聴覚研究会の姿だと思っています。

さあ、研究に携わる皆さん、これまでの研究の経過を踏まえ、これから先の社会を見つめ、「もっとよく」あろうとする気持ちをもって取り組んでいきましょう。

目次

特集記事

研究会長あいさつ	1
授業デザイン部会	2
スキルアップ部会	3
夏季研修会報告	4

発行

横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会
会長 田中 公明

編集

紀要・広報委員
東森 清仁

平成27年度 夏季広報誌





授業デザイン部会について

平成27年6月30日に「世界最先端 IT 国家創造宣言」の変更についての中で(2010年代中には)「学校の高速度ブロードバンド接続、1人1台の情報端末配備、電子黒板や無線 LAN 環境の整備、デジタル教科書・教材の活用など、初等教育段階から教育環境自体の IT 化を進め、児童生徒等の学力の向上と情報の利活用力の向上を図る。」ことが閣議決定されました。近年、各自治体においてタブレット端末の整備や活用方法における研究や報告が急激に増えてきています。この教育の情報化推進の流れが今後より一層加速し、我々横浜市の各学校にも近い将来さまざまなICT機器が整備されることと思われます。横浜市においても今年度、横浜市全8校に(小学校4校、中学校4校)各校40台のタブレット端末が先行導入されました。

そのような状況において、我々教員のICT活用力向上も然ることながら、ICTを活用した授業デザイン、ICTを活用してどのような力を育てていくかを考えていかなければなりません。また、各教科・領域の目標を達成するためには、ICTの強み、アナログの強みを十分に理解して活用していかなければなりません。(下段へ)

タブレット端末の先行導入が始まった今、

本研究会の担う責任とニーズが高まっているのではないのでしょうか。

授業デザイン部会活動経過

4月 定期総会・オリエンテーション

講演会
「タブレット活用と21世紀型コミュニケーション力の育成」

放送大学教授 中川 一史先生

5月 会員研究

3年国語「わたしたちの学校行事」

西富岡小学校 藤原 直樹先生

6月 会員研究

5年国語「付箋紙の活用と協働学習
～「新聞を読もう」の実践から考える～」

新鶴見小学校 細野 友貴先生

7月 会員研究

3年社会「わたしたちの大好きなまち」

南吉田小学校 山口 晃史先生

「思考のプラットフォームとしての授業デザイン」

授業デザイン部会 部長 武井 三也

授業デザイン部会では、子どもが潜在的にもつ相手意識・目的意識・切実感等を思考ツールやICTを活用して言語活動の充実・協働的な学びを促進する研究を進めています。今年度は「ICTを活用して、子どもたちの思考力アップ」をテーマにしました。

4月には、放送大学中川一史教授から、この情報化推進の流れのなかで授業をする私たちに、様々なアドバイスをいただきました。タブレット端末を用いたこれからの学習スタイルでは、子どもたちの話が互いに「からみ」合い、その中で思考が「ゆるぐ」ことで思考力が育めるように、教師が授業をデザインしていかなければなりません。タブレットが思考力を育ててくれるのではなく、教師がタブレット端末の特長を見極めて授業デザインする必要があると言えるでしょう。

5月 西富岡小学校藤原直樹先生の国語「わたしたちの学校行事」の実践提案では、思考を可視化するために思考ツールを用いたり、子ども自身が主体的に学ぶためにルーブリックを作成したりするなど、単元全体を通して子どもたちの思考力アップのために授業がデザインされていました。参加者も思考ツールと教科のねらいを関係づけていくことを考えることができました。

6月 新鶴見小学校細野友貴先生の国語「付箋紙の活用と協働学習～「新聞を読もう」の実践から考える～」の実践提案では、子どもが自分の考えを互いに出し合い、同じ土俵で話し合いをするなかで最適解の追究を行っていく協働学習や、汎用的な能力を育む授業づくりについて考えることができました。

7月 南吉田小学校山口晃史先生の社会「わたしたちの大好きなまち」の実践提案では、外国につながる児童が多いという実態に応じ、思考ツールやICTがどのように効果を発揮するのか、その可能性を考えることができました。

毎月の会員研究では、実践提案をもとに、参加者自身も思考ツールを用いて、ワークショップを行うことで、体験的に私たちの学びが深まるように工夫して研究を進めています。タブレット端末の先行導入が始まった今、本研究会の担う責任とニーズが高まっているのではないのでしょうか。今後も、機器に振り回されることなく、教科・領域の目標を明確にして「子どもたちの思考力アップ！」のための授業デザインを全市に発信し続けていきたいと考えています。



スキルアップ部会について

現在中央教育審議会において審議されている、21世紀型能力の中核として位置づけられた「思考力」を育成していく為には、その土台となる「基礎力」が必要不可欠であると考えられます。その基礎力の育成のために、ICT がどのように寄与できるのか、環境整備の在り方を研究したいと思っています。また、児童が ICT を効果的に活用するために、どのような情報モラルが必要か考えていきたいと思ひます。

子どもたち自身がICT機器を活用して取り組む為には、まず教員の基礎力のスキルアップが必要となってきます。今年度は、21世紀型能力の土台となる「基礎力」の育成を図り、その研究を重ねていくことが、「情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成」に繋がることを目指して、今年度の研究に取り組んでいきたいと思ひます。

「教員の ICT 活用能力のスキルアップをめざして」

スキルアップ部会 部長 伊藤 裕哉

5月には、東京書籍の方々のご協力で、「算数デジタル教科書」について、体験やグループセッションを交えながらお話していただきました。指導者用だけでなく、学習者用デジタル教科書についてのお話もあり、教科書 AR などの新しい機能も体験することができました。

6月には、光村図書の方々のご協力で、「国語デジタル教科書」について、解説やグループワークを交えてお話していただきました。CoNETS ビューア、各種タブなどについて教えていただきました。それらの点を踏まえて、デジタル教科書の活用方法について、グループ毎に話し合い、それらを共有することができました。

7月には、三ツ境小学校でのタブレット端末の活用状況や、昨年度の実践提案をしていただきました。理科では解剖顕微鏡の接写・振り子の動きの撮影、体育では運動の撮影などカメラ機能を使うことが多いことなど、具体的なお話がありました。また、昨年度の実践『タブレット端末を使った「鳥獣戯画」「アップとルーズで伝える』』では、タブレットを使って鳥獣戯画の読み取りの学習についてお話していただきました。

今後は、12月に行われる公開授業研究会の指導案検討や、タブレットPCの環境整備などについて研究を進めていきたいと思ひます。その他、各区各学校でお困りのこと、疑問に思うことなどがありましたら、部員みんなで考えていきたいと思ひますので、是非、研究会に参加してみてください。情報交換をする中で、解決の糸口が見えてくるかと思ひます。たくさんのご参加を、お待ちしております。



スキルアップ部会活動経過

4月 定期総会・オリエンテーション

講演会
「タブレット活用と21世紀型コミュニケーション力の育成」

放送大学教授 中川 一史先生

5月 会員研究

「デジタル教科書を使った授業づくり①」

常盤台小学校 東森 清仁先生

6月 会員研究

「デジタル教科書を使った授業づくり②」

今宿小学校 伊藤 裕哉先生

7月 会員研究

「教室にタブレット端末がやってきた」

三ツ境小学校 佐野 幸彦先生

夏季研修会報告

横浜市情報・視聴覚教育研究会主催
夏季研修会報告
「思考ツールの活用」(午前)
「デジタル教科書の活用方法」(午後)

神奈川県放送教育研究協議会・視聴覚教育連絡協議会
合同夏季特別研修会報告

【放送教育】

互いの良さを認め合い、学びを深める放送教材の活用
～NHK学校放送「いじめをノックアウト」を活用して～
鴨志田緑小学校 武井 三也先生

「思考ツールの活用」

夏季研修会の午前の部では、西東京市立碧山小学校主幹教諭の中島武史先生をお招きして、思考ツールの活用方法についての研修会を開催しました。児童から出された意見の中からアイデアや問題を視覚化するための方法、考えや情報を整理するための方法、子供たち同士が意見を共有するための方法など様々な場面に応じた思考ツールの活用について具体的な事例を挙げながら説明をしていただきました。その後グループごとに分かれ、実際の場面を想定しながら思考ツールを活用した授業デザインについてのワークショップを行いました。実際に思考ツールを参加者が使ってみることを体験する中で、その良さや活用の視点などに気が付くことができ、今後の授業での活用につなげられる研修となりました。

「デジタル教科書の活用方法」

夏季研修会午後の部では、東京学芸大学準教授の加藤直樹先生と光村図書出版株式会社の方をお招きしてデジタル教科書の活用方法についての研修会を開催しました。これまでのように教師が授業で活用するものとは別に、児童の手元にタブレットがあることを想定し、そのタブレットにインストールして活用することができる「学習者用デジタル教科書」というカテゴリの製品が加わり、いままでの教師が演示的に使うスタイルだけではなく授業つくりについて考えることができました。また、研修会の後半にはグループごとに分かれ、デジタル教科書を使用することを想定して自分だったらどのような学習に活用するかという意見交換や、今後の開発に盛り込んでほしい機能についてのディスカッションなどを行うことができました。

～NHK学校放送「いじめをノックアウト」を活用して～

8月24日に横須賀総合高等学校にて神奈川県放送教育・視聴覚教育合同夏季特別研修会が行われました。本研究会からは鴨志田緑小学校の武井三也先生がNHK学校放送「いじめをノックアウト」を活用した授業実践についての提案を行いました。研修会では、NHKのディレクターの方に番組制作の意図についてのお話を伺ったり、グループごとに分かれて実際の放送を視聴し、それぞれの放送回のテーマを実際の授業の中でどのように取り入れ番組活用ができるかという点についてのグループワークを行ったりすることができました。また、その後続けて行われた武井先生の実践報告の中では、放送番組をどのような手法で授業の中に取り入れたのか、その活用の中で児童の考えや集団の中にもどのような変容が見られたのかという点についての報告がありました。研修の最後に参加者全員で「NHKいじめを考えるキャンペーン 100万人の行動宣言」に参加しました。放送教育の活用の中で、いじめ問題について深く考えることのできる研修となりました。



メディアワールド

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

授業デザイン部会
実践提案 3年国語「わたしたちの学校行事」
スキルアップ部会
部会研究 算数科デジタル教科書(東京書籍)について

横浜市立小学校
情報・視聴覚 研究主任様
横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育研究部会員様

平成27年度 5月号
【発行】
横浜市小学校教育研究会
情報・視聴覚教育部会
会長 田中 公明

5月13日(木)にフォーラム南太田にて各部会による会員研究行われました。

<授業デザイン部会>

提案者 : 藤原直樹先生(西富丘小学校)
提案内容: 3年国語「わたしたちの学校行事」
国語の話すこと・聞くことの学習として、1年生に学校の先生を紹介するという言語活動に取り組みました。タブレット端末を使い、1年生に画面を見せながら、取材をした先生の仕事や思いなどについて紹介をしました。

思考ツールと教科のねらい

今回の実践では「マッピング」「ピラミッドチャート」「ステップチャート」と、3つの思考ツールが使われていました。誰に何を伝えたいか、一人ひとりが自由にアイデアを出し合ったり、取り込み(話・聞ア)それを分かりやすく伝えるために内容を構造化する(話・聞イ)など、それぞれのツールがもつ特性を教科のねらいと関連付けて、どのツールを使うか特徴することが重要であると分かりました。

研究会からのお知らせ

「メディアワールド」

市情報・視聴覚研究会では、活動の内容を広く知ってもらうために各月の活動の内容を「メディアワールド」という広報誌にまとめ、各学校の情報担当の方に配布しています。

取り組みの内容や活動に興味をもった方はぜひお気軽に研究会に参加していただければと思います。

みんなで、楽しく、充実した学びに取り組んでみませんか。